

研究会抄録

経緯度研究会抄録

1969年12月22日09:30より17:00にわたり、虎ノ門の国立教育会館を会場に本年度初の経緯度研究会が開催された。今回は経緯度観測と地球物理現象との関連を中心テーマとしたもので、奥田豊三氏座長の下に、次のようなプログラムに従がい熱心な討議が行なわれた。出席は約45名であった。

1. 極座標の決定、特に時刻観測データと緯度観測データから求められた両結果の食違について (東京天文台) 岡崎清市
2. 日本の地殻の水平変動、特に地震との関連について (地震研究所) 茂木清夫
3. 暦表時、特に古代中国暦より求められた結果について (東京天文台) 広瀬秀雄
4. Z項について (緯度観測所) 若生康二郎
5. 地球潮汐、特に緯度観測との関連および傾斜計、重力計による測定結果の概況について (緯度観測所) 須川 力
6. 歐洲の地殻変動観測の現況(海外視察報告) (緯度観測所) 細山謙之輔

位置天文学連絡会抄録

12月22日の経緯度研究会に引きつづいて、翌23日09:30から同じ国立教育会館において位置天文学連絡会(仮称)が開かれた。この会合は1968年12月発足したもので、ひろく位置天文学に関心のある研究者をメンバーとして、科学研究費申請の打合わせ、位置天文学の将来計画および研究に関する情報交換を主目的としている。この日の会合は、いままでこの会の世話人をつとめてきた虎尾正久氏の司会の下に、次のような順序で進められた。

- (I) 本会の今後の運営について
- (II) 次年度科学研究費の申請について
- (III) 国際シンポジウム開催について
- (IV) 位置天文学将来計画について
- (V) その他

この内、(I)については本会の目的が上述のように再確認され、会の運営は今後いままでのような世話人方式で進めることが了承された。また話合いの結果、竹内端夫氏が推されて次期世話人を引受けることを承諾した。なおいままで仮称であった本会の名称は今後正式名称「位置天文学連絡会」とすることが了承された。

(II)については、総合研究A「地球の運動の研究」(研究代表者、弓滋)の第2年度研究費申請のため、今年度の資料をもとに研究参加者の一部変更、追加などの具体的な打合わせが行なわれた。次いで後述の国際シンポジ

ウムに備えて、総合研究Bを申請する計画が弓滋氏から報告された。この件はすでに12月19日の天文学研連委で了承されたものである。題目は「地球回転と内部構造」とし、研究代表者に奥田豊三氏、研究分担者には経緯度関係のみならず、天体力学関係、地球物理学関係などをひろく包含する構成とすること、締切期日が迫っているので具体的な計画、手続きは緯度観測所へ一任することなどが了承された。

(III)については、弓滋氏の報告で地球回転と内部構造に関するIAU, IUGG共同主催の国際シンポジウムを日本で開催する計画が披露された。時期は1971年5月中旬、会場は盛岡グランドホテル、参加者は国内外を含めて計60~70名、所要経費は約600万円、主査にメルキオール、役員にフェドロフ、マルコビッツ、ザガー、クック、ジョージ・ベース、奥田、弓などを予定しているなどの具体的な計画の報告があり了承された。

(IV)については、位置天文学懇談会が検討をつづけてきた現状分析についての調査経過が弓委員長により報告された。この位置天文学懇談会は、位置天文学連絡会に属する小委員会として、前回の会合の折了解されたものである。今後問題をもっと具体的に展開してゆくため、構成メンバーをこの際一新したいとの提案があり了承された。新メンバーは研究機関別に、北から1. 緯度観測所、東大関係(2. 天文教室、3. 東京天文台、4. 地震研究所)、5. 水路部、6. 国土地理院、7. 京大関係をそれぞれ代表し、同時にまた分野別に、A. 経緯度(長基線電波干渉計含む)、B. 力学(銀河系、相対論を含む)、C. 暦(天文定数を含む)、D. 基本座標系(子午線、恒星系)、E. 太陽系天体(掃天、月レーザー、レーザーを含む)、F. 測地天文(人工衛星、レーザー含む)、G. その他をそれぞれ代表する10名内外が望ましいとされた。協議の結果次の諸氏が一応選出された。

須川力(1, A)、堀源一郎(2, B)、北郷俊郎(6, F)、森巧(5, C)、長沢工(4, F)、安田春雄(3, D)、竹内端夫(3, E)、今川文彦(7, D)、飯島重孝(3, A)。

なお、その後この件に関連して、京大側より中川一郎(7, G)を委員に追加して欲しいとの申入れがあった。

最後に、(V)については各分野の近況報告として、SAMについては高瀬文志郎氏、力学研究会については畑中至純氏、レーザー関係については竹内端夫氏、衛星測地に関して進士晃氏、長基線電波干渉計について松波直幸氏、新子午環およびその予定地について安田春雄氏、天文測地機械について坪川家恒氏、水沢のPZT 2号機について奥田豊三氏からそれぞれ発言があり13:00閉会した。(飯島重孝)